

PM学会四国支部 2025年10月度研究会記録

日 時：2025年10月30日(木) 13:00～15:15

開催方法：オンライン開催 (Teams 配信)

主 催：プロジェクトマネジメント学会四国支部

後 援：特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会

出席者：23名

講師 ①：大和田 昭邦氏 (株式会社 DynaxT)

講演 ①：「プロジェクトマネジメントの心得」

内 容：プロジェクトマネジメントの基本的な心得は、

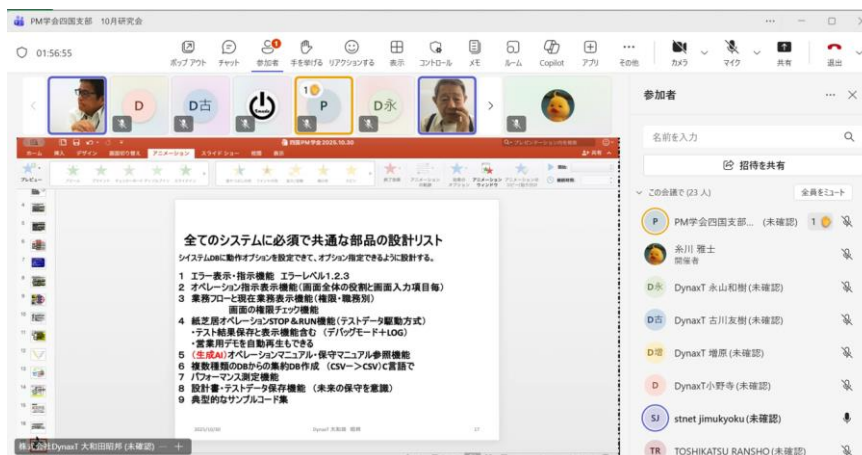
- ・目的とゴールの明確化
- ・密なコミュニケーション
- ・リスク管理

この3つに集約されると言われています。

今回の講演では、特に「リスク管理」に焦点を当て、以下のような観点からプロジェクト成功のための重要なポイントが紹介されました。

- ・設計手法を選定する際には、その手法を活用できる人材が社内にどれくらいいるか、将来的に（10年後など）保守を担える要員が確保できるかといった点を慎重に検討する必要がある。
- ・また、ユーザー視点に立った非機能要件の洗い出しも、プロジェクトの品質や運用性を左右する重要な要素である。

これらの視点を踏まえた研究事例が紹介され、プロジェクト成功に向けた実践的な知見が共有されました。



講 師 ②：古川 友樹氏、永山 和樹氏（株式会社 DynaxT）

講 演 ②：「ITシステムパッケージ開発と納入のPM失敗例」

内 容：ITシステムパッケージとは、特定の業務に対応できるよう、あらかじめ汎用的な機能が組み込まれて製品化されたソフトウェアです。標準的な機能を備えているため、比較的低コストかつ短期間で導入できるというメリットがありますが、一方で、顧客独自の業務に合わせたカスタマイズには限界がある場合もあり、導入時にはその点を十分に考慮する必要があります。

今回は、パッケージ開発において、設計・計画の精度がプロジェクト成功の鍵となることについて、失敗事例や反省点を交えた研究事例をご紹介します。

講演後の質疑応答では、「今回のプロジェクトの失敗は、PMと新入社員数名だけというチーム構成に問題があったのではないか」との質問がありました。

これに対し、古川 友樹氏および永山 和樹氏からは、「問題はチーム構成そのものではなく、新入社員を活用してプロジェクトを進めるための計画や準備が不十分だったことにある」とのご回答がありました。

PM学会四国支部 10月研究会

01:10:51

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (23人)

全員をリスト

PM学会四国支部事務局 (未確認)

永川 雅士 (未確認)

DynaxT 永山 (未確認)

DynaxT 永山和樹 (未確認)

DynaxT 古川友樹 (未確認)

DynaxT 増原 (未確認)

stnet jimukyoku (未確認)

TOSHIKATSU RANSHO (未確認)

振り返り (対策)

- できないこと・わからないことを勝手に断って、勝手に終わらせている(仮になっている)
 - やったことをドキュメント化する。わからないことを要領しない
 - 完了を自分で判断しないために、レビューを受ける
 - できると思わない方が自分に優しい
- 仕事として残すべきものを残していない = 何もしていない
 - 確認しても確認事項と実行してドキュメントを作成して、「資産」にする
 - 自分からいなくても先輩が確認する
- 教える意識がなかった
 - 先に準備して教えられるだけの資料を作る
 - タスクを割り振るのではなく、一緒に作業の完成を確認する (レビュー・手直しを教える)
 - 教えるの場をいかに作るか、教えるの場をいかに作るか
- 自己との向き合いを中途半端にしていたこと
 - 振り返りの必要をドキュメントとして残す
 - 記憶だけに頼らない = 記憶に頼るから教えない
 - 自分からいって問題をあきらめない = 問題を解決する努力をする (自覚能力)

PM学会四国支部 10月研究会

01:23:55

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (24人)

全員をリスト

PM学会四国支部... (未確認)

永川 雅士 (未確認)

DynaxT 永山 (未確認)

DynaxT 永山和樹 (未確認)

DynaxT 古川友樹 (未確認)

DynaxT 増原 (未確認)

DynaxT 小野寺 (未確認)

stnet jimukyoku (未確認)

振り返り (人を丁寧に扱っていなかった)

- メンバーを見ていないリーダーだった=チームになっていない

- 各メンバーの得手不得手・能力・興味を持っていることを分析することが必要だと思っていなかった。要員A/B/C/Dのような、画一的に見ていた。
- 冷たいリーダー・ついて行きたいと思えないリーダーであった。
- 好きなリーダー・できるリーダーは、メンバーをよく見て・よく考えて仕事の割り振り、声かけをしている。一言でまとめる、気を回せる。

- 仕事の割り振りのミス

- 自分を含めてメンバーには一人一人得手不得手があるが、それを考えた仕事の割り付けをしていなかった。
- 間違った「公平・平等観」を持っていた。メンバーに割り振る仕事の量に差をつける = メンバーの誰かを不当に高く評価し、誰かを貶めるという思い込みがあった。
- 結果、全てのメンバーにとって不適切な仕事となり、うまく仕事を消化できず、デスマーチ化した。

講 師 ③：小野寺 淳一氏（株式会社 DynaxT）

講 演 ③：「再構築案件の失敗事例」

内 容：再構築案件とは、老朽化した既存システムを最新技術を用いてゼロから作り直すプロジェクトを指します。単なるシステムの置き換えではなく、現行システムの課題を洗い出し、業務プロセス全体を見直したうえで、新しい技術を活用したシステムを構築する点が特徴です。今回は、そうした再構築（マイグレーション）案件における失敗事例についてご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、「再構築案件を受託する際のポイント」に関する質問があり、小野寺 淳一氏からは、「既存システムと同じ仕様での再構築を求められる部分も多いが、その中には開発側が正確に理解できていない、あいまいな部分が含まれている場合がある。そうしたケースでは、準委任契約とし、事前に調査フェーズを設けることが重要である」と回答をいただきました。

PM学会四国支部 10月研究会

02:19:03

制御する ポップアウト チャット 参加者 手を挙げる リアクションする 表示 コントロール メモ ルーム Copilot アプリ その他 カメラ マイク 共有 退出

対応に追われる

- 理解不能な科学技術計算はチンプンカンプン
- どんな計算をしているのかすら分からない
- 全部が影響しているように見える
- 影響箇所の切り分けが出来ず全部確認するはめに
- 元ソースは古くモジュール化されていない(GOTOの嵐)
- なぜ違う結果になるのか類推しながら根本原因を洗い出し修正
- 元ソースを良かれと思って構造化した箇所の不具合
- 言語による有効桁数の違いなど処理判定の違い
- 論理背景が分かっていないため、対処的に修正すると別の箇所に不具合が発生
- 図形表示はデータ構造を変更したため、ほとんど作り直し

DynaxT小野寺 (未確認)

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (22 人) 全員をロード

- 永川 雅士 関係者
- D永 DynaxT 永山和樹 (未確認)
- D古 DynaxT 古川友樹 (未確認)
- D増 DynaxT 増原 (未確認)
- D DynaxT小野寺 (未確認)
- P PM学会四国支部事務局 (未確認)
- SJ stnet jimukyoku (未確認)
- TR TOSHIKATSU RANSHO (未確認)

以上